

平成 25 年度まちづくり座談会における質問と回答の要旨

■荒砥地区：8月9日（木）午後7時30分～9時 参加者数 37人

Q. 7月22日の豪雨で、避難指示により中央公民館に避難した際の経費についてはどのようになるのか。まだ業者への支払いが済んでいないのだが、まずは区の会計から立て替えてもよいか。

A. このたびの災害については災害救助法が適用となったため、避難指示等によって避難された避難所等に係る経費については、補助の対象となる。領収書または請求書を提出いただきたい。

Q. 避難した際に情報収集のためパソコンを持参したが使えなかった。10台くらい使える程度のものでよいので、避難所に無線LANのルーターの設置をお願いしたい。

A. 避難所の無線LANルーター整備については、想定していなかった。今後、検討したい。

Q. コミュニティセンター化について、平成27年4月から移行の予定で、各地区ごとに進めるとのことだが、進捗状況を説明いただきたい。

A. コミュニティセンター化については、区長等を通じて説明する機会を設けてきた。現在の地区公民館は教育委員会所管であるが、コミュニティセンターについては町長部局が所管となる。まずは、地区ごとに、センターを運営していく組織となる「地区経営主体」を立ち上げていただき、具体的な事業についての地区計画を策定していただく。その計画に沿って、予算編成、職員の採用等をしていくこととなる。各地区公民館には、今後、説明していく。平成27年度からの移行に引き続きご理解、ご協力をお願いしたい。

A. 地区ごとにどのような課題があり、どのように解決していくのかを整理してからでないと移行できない。まずは、各地区の進め方を考えていただきたい。

Q. このたびの災害にあたって、毎夜2時3時までの消防団の活躍があった。町の消防団組織の状況は？

A. 現在、白鷹町の消防団は、670人の定数を満たしている状態である。このたびの災害では、消防団には町民の安全確保のため各地で活躍いただいた。また、消防団員の出勤について、それぞれの職場の方々にもご理解をいただいた。お礼を申し上げたい。

Q. このたびの水害で下水道のマンホールの蓋が流されたところに土砂が入って下水道が使えなくなり、かなりの異臭が発生した。町の職員に来てもらったが、「臭いはするが何かあったらまた連絡ください」と回答された。この下水道の件だけでなく、各所にゴミなど

も流れているので温度が上がれば病気の発生も考えられる。以前は浸水被害などあれば、消毒剤の散布など、町で巡回し対応していたが、今はそういうこともされていない。このような場合の対応マニュアルをつくっていただきたい。

A. 下水道のマンホールについては、確認し対応する。

A. 床上浸水については、健康福祉課において被害宅を訪問し、対応している。床下浸水については、保健所に問い合わせたところ、泥やゴミを除去して乾燥させればよいとのことであった。それでも心配な場合は消石灰の散布をとのことだが、現在の住宅の気密性を考え、積極的に消毒を進めてはいないとのこと。電話等の問い合わせに対しては、そのように回答したが、対処方法の周知について徹底できなかったことはお詫びする。

Q. 自主防災組織は、災害が起きてから活動するものと言われたが、災害予防の対応も必要ではないのか。場合によっては、非常時には私有地に入っただけの予防対応も必要と思うが、どのように考えているか。

A. 災害の際に公共機関だけでは対応しきれないため、初動対応における地域での安全確保を目的として自主防災組織がつけられた。ご指摘のような現実的な対応について、国において法的な整備がされていないまま、災害が起こっている。今回の災害を教訓として、自主防災組織連絡協議会において具体的事例をもとに検証し、現実的な対応を考えていく。また、今後、住民の方々の実態に合った地区の防災計画、防災マップをつくっていく。

Q. 先月 18 日の水害の際、消防団員が「木ながし工法」がわからなかった。消防団は水害の際には水防団となるが、水防訓練はやっているのか。団員がわかるような水防訓練をしてもらいたい。

A. 消防団の水防訓練は何度かやっているが、現実に対応する機会はなかなかないため、実際の対応は難しい。県の水防訓練大会の上位の市町村においても、今回の災害の実際の対応は難しかったようである。今後の水防訓練に活かしていくよう検討する。

Q. 冠水した道路で路肩が崩壊しないよう対処するよう町職員にお願いしたが、崩れたところに 1 トンパックを置いて行っただけであった。結局は自分が土のうやシートを使って対応した。職員には現場での災害対応をもっと勉強してほしい。

A. ご指摘の箇所については、現場を確認し、区長とも話をしながら、応急的な復旧になるかとは思いますが対応したい。

Q. このたびの災害を踏まえて、自主防災組織の活動は、災害予防、訓練、啓もう活動等とし、災害が起こってからは、区長を中心とした行政の組織で対応するべきだと思った。全対応が自主防災組織では動けない。より活動しやすい組織をつくっていきたい。

A. 上手くいかなかった部分もあろうかと思う。地域において課題を整理し、様々な災害に対応できるよう検証していただきたい。ご協力をお願いしたい。

Q. 消火栓のホースがほとんど使えない。新しく更新したものはすべて町内で負担した。今後5年で順次更新していく予定だが、全額ではなくとも町から助成してもらえないか。

A. 消防施設の備品等について、使用可能かどうか検証するよう、消防最高幹部会で消防団に指示した。有事の際に使用できないのでは意味がないので、配備なるような手立てについて検討する。

Q. 庁舎再配置計画について、基本的には現在の場所にとの考えのようだが、災害の場合の避難施設ということも考えて検討していただきたい。

A. 庁舎再配置については、庁舎、中央公民館、図書館、防災センターを基本に、どの程度の規模になるかを検討していく。中央公民館については、今回、実際に避難所として利用した。今回の事例も参考にし、避難所としての規模的なことも含めて検討していく。

A. 新しい庁舎と一緒にした形で防災センターを設けたいと考えている。常には公民館のように利用し、非常時には避難所及び指示を出す防災センターとして機能する施設にと考えている。また、消防分署が一体となって動けるようなものとして検討している。

Q. 庁舎再配置計画について、防災センターとの一体的な整備に経費はいくらかかるのか。また、いつまでに整備するのか。できるだけ早く整備してほしい。

A. 積立を合計すると18億円ほどあったが、今回の災害対応に財政調整基金3億2千万円をとりくずした。できるだけ町内の木材もしくは県内の木材を使って整備したい。また、国、県の助成が受けられるよう努力をしている。今年度中には基本構想を示したいと考えており、そう遅くない時期に町民のみなさんにお示しし、ご意見をいただきたい。

Q. 学校の統合にあたっては、条件はあまりつけないようお願いしたい。

A. 白鷹町の子どもたちをどうやって育てていくか、教育をどうしていくかという視点が重要であり、条件などということはいっさい考えていない。